



第 20 号
平成 21 年 12 月
野木小学校同窓会編集部



第47回卒(昭和31年)
同窓会長(兼田) 藤田嘉昭

ご挨拶

同窓会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。昨年度の「野木小学校百周年記念事業」におきましては、会員の皆様はもとより、実行委員会、同窓会役員を中心とした多くの方々のご協力とご支援を賜わり、事業全体が成功のうちに終わりましたことをお祝い申し上げますと同時に、二年間にわたるご尽力に心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、私こと平成二十一年三月総会におきまして会長に選出されました。歴代の立派な先輩会長の方々を考えます時「なぜ私」ときが・・・と大変気恥ずかしく思いなが

らもお引き受けした次第です。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。今ここに、すばらしく、懐かしき満載の「野木小学校百周年記念誌」があります。創立百周年の文字を見て、ひとつのことを考えました。過ぎ去った一〇〇年とはなんと大きな意味を持つ数字でしょうか。混沌とした夢と不安の先にある未来の一〇〇年とはまったく性質が異なり、過去の一〇〇年もはるかに遠いのですが、なぜかとても近くにある感じさえします。懐かしく、愛おしく、喜怒哀楽を表すすべての形容詞をもつてしても言い尽くせないのが過ぎ去った一〇〇年ではないでしょうか。



私事で恐縮ですが、私の伯母に新田むめさんという方がいらつしやいます。現在お年は百歳。したがって、伯母の生まれた年は野木小学校創立年と同じになります。野木小学校を六年間で卒業しましたから、伯母は第十二回卒です。卒業記念写真のページをさがしてみました。同級生は三十九名。名簿には確かにそのお名前を見つけたことできました。

この伯母と前後する卒業写真の先輩たちの表情にも、その後必ずやってくる一〇〇年先の、今私たちが感じるのと同じような、未来への夢と不安さえも読み取ることが出来ます。すでにお亡くなりになった方々もいらつしやるでしょうが、各々の人生が素晴らしいものであったことを願いたいと思います。そして、野

木小学校が今後「二百周年記念」「三百周年記念」へと続くことを祈念して私のご挨拶といたします。最後になりましたが、会報発刊にあたり多くの皆様からのご寄稿をいただき、深くお礼申し上げます。



第47回卒(昭和31年)
前同窓会長(武生) 清水勇雄

同窓会長退任ご挨拶

同窓会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて私こと、同窓会役員任期満了により、平成二十一年三月末日をもって会長の職を辞させて頂きました。在任中は何かと会員の皆様、役員、学校教職員、野木地区民各位の指導、ご支援と温かいご協力を賜り、また節目の「野木小学校百周年記念事業」をおだやかな晴天の一日多くの参加者のもと、大過なく終わらせていただきましたこと厚くお礼申し上げます。春三月には、第百回目

の卒業生を送り出し、五月に記念誌の発刊をもってすべての事業を閉じさせていただきました。私にとりましては一生忘れることの出来ない大事業であり、本当にお世話になりました。

この先は、次の百年に向けて藤田嘉昭新会長の元、児童、同窓会員、役員、地区民各位が活躍されることを期待しております。

最後になりましたが、皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。ありがとうございました。





101年目の出発

野木小学校長 吉田淳夫

学校周辺の山が秋色に衣替えをし始め、野木の里に秋の深まりを感じさせています。

同窓会員の皆さまにおかれましては、町内はもとより全国各地でますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日ごろより深いご理解と温かいご支援を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。とりわけ、昨年度の野木小学校百年記念事業に際しましては、皆さまの物心両面の温かいご厚情によりまして、地域挙げての事業としていただき盛会裡に終えることができました。改めてお礼申し上げます。尊いご浄財によって建てていただいたビニールハウスでは、トマト・きゅうり・なす・とうもろこし等がたわわに実り収穫を終えました。

の教育活動に励んでいるところです。今年度は昨年に引き続き文部科学省の自然の中の長期宿泊体験事業（農産漁村におけるふるさと生活体験推進校）として指定を受け、5・6年生が若狭町神子の漁村や末野の農楽舎に宿泊し、漁業や農業の体験をおしてふるさとのおよきに気づくことや集団生活の中でのよりよい人間関係づくりに取り組んでいます。また、体力の向上を目指して、週1回放課後に1時間程度、スポーツで遊ぶ時間を設けています。これは、県の「スポーツ大好き子育て事業」の指定によるもので、毎回子どもたちはドッジボールやニュースポーツにより汗をかいています。

毎日の学習やこれらの活動によって心身ともに健康な子どもたちに育ってほしいと願っています。

最後になりましたが、会員の皆さまのご健康とご多幸を

お祈り申し上げますとともに、今後とも、ご支援・ご指導賜りますようお願い申し上げます。また、母校へお気軽にお立ち

寄りくださいまして、後輩に励ましのお言葉をいただきますようお願いいたします。すよう願ひし、ご挨拶いたします。



野木小学校百年記念誌の宝

第52回卒（昭和36年）
若狭町議会議員
教育厚生常任委員長（上野木）

清水利一

まずは記念誌発刊にあたり、絶大な御尽力をいただきました編集委員の皆様、関係各位の方々に、心から敬意と労苦と、深い感謝を申し上げます。

私は、数えて第五十二回として、昭和三十六年に五十名という歴代で最大卒業人数の内の一として卒業しましたが、

記念誌を拝見して、今もその時に皆と支え合った事等を鮮明に覚えており、なつかしくその当時に更けることがあります。

「野木」という名とともに、豊かな自然環境や歴史、文化に歩んで来られ、生きてきたことに地域住民としても誇りに思いますし、母校と愛校心に強い愛着を感じるのには私だけではないと思います。

私は、住民の視点から、今

までにまちぐるみ地域ぐるみで、先人たちが支え合ってきたことが、野木地域の歴史と伝統を育み、今まで永きに渡り受け継いでこられたことに心から感謝し、今後も大切であり継続しなければならぬと考えています。

その意味で働く場の拡大、若者が住みやすい地域づくりと、更なる環境整備の推進が重点課題と位置付け、その実現に向け、将来につながるまちづくりの基本施策を掲げて、展開していくことこそにつきますし、その責任と使命を痛感するものです。

また、地域とともに輝き、安心と安全に満ちた笑顔、未来への希望があつてこそ、「明るい地域社会づくり」の根幹とと考えています。

そして、国づくり地域づくりの基本は、教育と未来を担う人材を育成する場であり、そのためには明るい地域社会をつくるのが最大のテーマと考えています。

近年、高齢化、小児化、教育等々課題は山積みしており、今後の地方行政の在り方は、独自性が問われる時代になると思われますが、これから必要なのは働く意欲に込める政策と、この地で生きるための地域環境の整備充実と活性化を目指して、更なる生活基盤の安定を図るなどの経営的施策活動が、社会的参入と自立、地域力につながっていくと考え、たとえ小さな力でも、そのことにまだまだ情熱を注いで、積極的に一役担っていききたいと考えているところです。

この記念誌が、同級生同士の心の幹となり、母校と卒業生、故郷と地元の皆様を結ぶかけ橋になることはもちろん、自分自身の一つの励みになることであり、勇気と希望をもらったことは事実です。

私の宝物として、座右にそつとおいて大切にしまつておきます。

旧職員からの便り

心のふるさと野木の里

(昭和53年度～55年度の教諭)

鯖江市 西川 春夫



野木小学校で皆様にお世話

になつていた頃のことがついに昨日のことのようになつかく思い出されます。以来三十年が過ぎました。野木小学校は、私が教員としてスタートを切つたたいへん思い出深い学校です。野木地区の方々からも多くのご厚情をいただき、今も感謝の気持ちでいっぱいであり、野木の里は、心のふるさとです。

私は現在、鯖江市の河和田小学校に勤務しています。本校は、鯖江市の東に位置し四方を山に囲まれた谷沿いに位

置する全校児童二七一名の学校です。河和田地区は、昔から鯖江の地場産業である眼鏡業や「河和田塗り」といわれる伝統的な漆器産業がさかんです。また、自然が豊かで農業や林業に携わる家庭も多く、オシドリをはじめとした野鳥やホタルの観察地にもなつて

います。さて、ここで、当時をふりかえつてみます。昭和五十三年四月一日、人なつっこい子どもたちと豊かな自然が、私をあたたく迎えてくれました。

四年生十二名(男子七名、女子五名)の担任として教室での子どもたちとの出会いは感激の瞬間でした。その時のことは、今でもはつきりと目の前に浮かんできます。担任した子どもたちとは、小学校卒業まで三年間共に過ごしました。あすなる農園でのさつまいもや落花生作り、新設されたプ

ールで思い切り泳いだ水泳学習、飯合炊飯やフアイヤーをしたキャンプ、力いっぱい走った体育大会、敬老会等で演奏した鼓笛、毎日の授業や全校体育等々。子どもたちは、たいへん仲良く元気に活動していました。

さらに、スポーツ少年団活動も盛んでした。春・夏は放課後遅くまでソフトボール、秋・冬は剣道・卓球の練習に汗を流し、上中町の大会等で活躍しました。このような体験を通して、子どもたちが身

も心も大きく成長していったことは、私にとっても大きな喜びであり充実感を得ることができ、その一つ一つが自分の財産になつていきます。野木の里での毎日は、本当に幸せでした。

昨秋、野木小学校創立百周年記念式典に参加させていただき、当時の思い出がよみがえつてきました。担任した子に会うこともでき感動しました。保護者として、わが子のステージ発表を見に来られていたのです。とてもなつかしくうれしい限りでした。また、お世話になつた地区の方々や職員の皆様にも再会でき、生き

ている喜びを実感しました。この記念式典に参加したこと、三十年前に自分を育てていただいた心のふるさと野木の里に対し、感謝の気持ちを新たにしたいところです。今後も野木の里と野木小学校が、さらに発展していくことを心から願っています。

素晴らしい出会い

(昭和61年度～62年度、平成13年度～17年度の事務職)

海士坂 高橋 香苗

私と野木小学校の出会い、二十年以上も前になります。上中町へ嫁ぐことになり、夫となる人以外はほとんど誰も知らない世界へ突入したのが、昭和六十一年四月でした。

まずは、地区歓送迎会。当時はランチルームで開催されていました。私は、何があんだかわからないまま、地区の役員の方と共にひな壇の端に座が盛り上がり、いつの間にか今は亡き山形さんに手を引かれて、各テーブルへ挨拶にまわっていました。熱烈な歓迎に当時の私はとまどうばかりでした。そうしてスタートした野木小学校での日々は、どんどん私を「野木の人」へ



昭和55年度 野木小学校卒業記念 S56.3.20

と変えていきました。

事務職員という立場でも、子どもたちとのふれあいはたくさんありました。放課後六年生と時間を忘れてバスケットをして、職員会議に遅れてしまったことや、自転車で古墳見学について行き、児童の一人と間違われるというエピソードつきもありました。

また、当時の野木小学校は養護教諭が未配置でした。具合が悪くなった子を保健室で看ていましたが、適切な看護はもちろんできず、よしよしと頭をなでているだけでした。私はもちろん、寝ている子どももさぞかし不安な思いだったことでしょう。

そんな若い時代を六年間過ごし、涙涙で転勤しました。しかし、思いの外早く、また野木小学校へと帰ってくるのができました。二回目に野



木小学校へ赴任したのは、平成十三年四月です。この時は本場に「帰ってきたー」という懐かしい気持ちでいっぱいでした。

かなり大人(?)になった私は、子どもたちとバスケットはなく、よく折り紙をして遊びました。ある日、一人の保護者から、

「折り紙を教えてくださいませんか。私がとう。続けてくださいね。」

と、そつと言われました。私は、その時のことが忘れられません。学校事務職員という職種であるけれども、いつも子どもと関わっていたいという思いがありました。こんな小さな関わりに、気がついてくださっている方がおられたことが、とてもうれしかったのです。

また、運動はもう無理といながら、体育大会で六年生と職員対抗のリレーに参加したことがありました。そして、バトンタッチを目前にして、観客席前で顔から地面に突っ込むという、とんでもない姿を披露してしまいました。これも、今となっては忘れられない思い出です。

そして、忘れてならない一番大事なこと。それは、地域

の方との出会いです。平成十八年春、地区歓送迎会で送られる立場になった時、今まで頂いた温かい言葉や優しい言葉が次から次へと廻り、胸がいっぱいでした。野木地区の皆様との素晴らしい出会いに

会員からの便り

先生方に感謝

第56回卒(昭和40年)

小浜市太良庄

高鳥 弘美

(旧姓・勝木)

小学校を卒業して、四十五年目となった。

早いものである。

学校の帰りに、田んぼのあぜ道を歩いた事、れんげ畑のなかで、追いかけてこをした事、北川で泳いだ事、ランドセルをしょって、マントを着たまま、雪の上に倒れた事など、楽しい思い出がよみがえる。

でも、何といつても思い出すのが、先生方である。

1、2年時は、田村初枝先生。やさしく暖かです。熱心に教えてくださいました。海士坂の自宅を訪れたり、

感謝すると同時に、この出会いをこれからもずっと大切にしていきたいと思っています。



三宅小に転任された時は、そこまで遊びに行ったりしたものである。

3年時は、永木允子先生。ハスキーボイスとあの笑顔。九九を覚える為、楽しいやり方を教えてもらい、必死にとり組んだものである。

4年時は、鹿野公夫先生。めがねの奥からのやさしい眼差しは、今も変わられていない。習字が、大好きになっていった。

5・6年は、山本尚繁先生。兼田のお寺の和尚さんでもあったので、先生以上の親しみもあり、何かと親切に

していただいた。

担任ではなかったが、やさしくって、上品な、田辺民子先生。すてきなお家へ寄せてもらい、おいしい物をご馳走になった事を覚えている。

以上の先生方は、力を緩める事なく、熱心に、全力投球で、教えて下さった。深い愛情は今も忘れていません。

その頃は、子ども同志、お互い、助け合って生活していた、いじめも何もない時代で、良い環境の中で過ごさせて貰ったことに感謝している。

私は、小さいときからの夢であった保育士を32年間務め、現在は、夫と一緒に有機無農薬の米・野菜作りをしている。そばも作り、自宅で、安全安心にこだわった手打ちそば屋もはじめました。

田辺先生のおられる太良庄へ、是非来てください。おいしいおそばを食べながら、昔話に花を咲かそうではありませんか。

小学校時代に培った体力

第68回卒(昭和52年)

東大阪市 竹村 由美子

(旧姓・森井)

母校である野木小学校を卒業して三十三年、私は高校卒業後に大阪で就職・結婚して、二人の子供に恵まれました。最近つくづく思う事は、自分の身体を健康に産んでくれた両親にとっても感謝している事と、学生時代の環境や部活動が本当に大切だったなと思います。

母校である野木小学校を卒業して三十三年、私は高校卒業後に大阪で就職・結婚して、二人の子供に恵まれました。最近つくづく思う事は、自分の身体を健康に産んでくれた両親にとっても感謝している事と、学生時代の環境や部活動が本当に大切だったなと思います。

学生時代の部活動は、体力は勿論、努力と根性・チームワークが必要だと思います。それらを小学校の頃から教えてもらい、自然に身につけてきたのだと思います。ソフトボール・剣道・選抜陸上競技会など、運動を頑張った事、またそういった野木の環境にいた事は、私のかげがえの無い大切な財産です。野木を離れ大阪に居て、辛い時・淋しい時には、その頃を思い出して、頑張ろう！と気持ちを奮い立たせています。

五年の頃には、地区対抗行事だった、男の子と混ざってソフトボールの試合がありました。ライトを守らせてもらい、「ライゴロー・だいごー」と、私が子連れ狼の大五郎のように、

現在二年前から主人と共にマラソンに没頭しています。これも学生時代に培った体力のおかげで、いろんな大会にエ

ントリーして長距離を走り抜き、完走の喜びに浸っております。春には、兄が毎年参加しているのに影響されて、「わかさあじさいマラソン」にエントリーしました。懐かしい母校の野木小学校をスタートして、通学路に並走した自然に囲まれたコースを走るのを楽しみにしていました。が、「新型インフルエンザ」の影響で中止となり、大変残念でした。

全国各地からの参加者が数千人も集まるマラソン大会が、野木で開催される事はとても凄いと誇りに感じます。これからも学生時代に培った体力を維持し続け、頑張つて来年挑戦したいと思っています。

田舎のおばあさん

第48回卒(昭和32年)

若狭町小原 島津 栄子

(旧姓・福井)



の如し」で、いつの間にかわいい孫に囲まれて、社会的にも年金生活をしている年になりました。私の恩師も八十才におなりで、今も元気に過ごしておられます。去年の同窓会にも元気でおいで下さいました。そして、一人ひとりに「〇〇ちゃん」、「〇〇ちゃん」と、まるで小学校一年生に入学した時と同じ呼び方で呼んで下さいました。しばしの間、自分たちに孫や家族がいるのを忘れてしまうほど、何ともいえない楽しい時間いただきました。

皆様こんにちは、昭和十九年生まれ六十四、五才になつて、孫も五人もいるお婆ちゃんです。この私に原稿の依頼があり、何もない事なかれ主義で生まれ育った私に、野木小学校の名誉ある会報にと頼まれ、本当に困つてしまいました。でも懐かしい思い出が蘇ってきました。

私たちの通っていた校舎は、今はどこにも見ることが出来ません。一番覚えていたのは、用務員のおばさんが、職員室

自分をかえりみれば、野木地区から鳥羽地区に嫁ぎ、主人や家族、親戚の方々に、いろいろと生きることに、仕事のやり方や考え方を教えてもらいました。また、地域の方々にも支えていただき、若狭町の女性農業委員にも就任させて頂き、全国の女性の方々と意見の交換や交流をさせてもらったり、家の光大会やテレビに出たりと、自分が勉強させてもらったことを、地域の方々に伝えることが出来、一人でも多くの方々と、地域の活性化を計ろうと頑張っています。

休み業の思い出

第71回卒(昭和55年)

奈良市 奥本通夫

私は、まず家族が健康で生活できることに感謝しながら、毎日の食事に自分の作った野菜、果実を食し、残ったら「加工」して保存する。それを作ることの楽しみを入れて、また、保育所や学校にも地産地消を入れていただき、学校給食はもとより、体験してもらえ、場所を提供し、果実をもちで食べたり、絵に描いて持って帰って下さったりして、喜んで帰って下さると、言いようの無い喜びを感じます。小さいときに食した味は忘れられず、成人してもまた、その子供さんにも伝えて、広がっていく輪の楽しさを思い浮かべて、自分なりに頑張っています。

自分たちが今、野木小学校の卒業生だということに誇りを持って、野木地区の人、鳥羽地区の人、懐かしくみんなお友達です。

つたない自分の話ばかりで申し訳ありません。会報に携わっておいでの方々、本当にご苦労様です。益々の野木小学校の同窓会報が発展されますよう、若狭町鳥羽地区よりお祈りしております。失礼します。

私が野木小に通っていたのは30年ほど前の事になる。

ゴダイゴの銀河鉄道999が流行っていた時で、任天堂がDS Liteの原型とも言えるゲームウオッチを発売したのも確かこの頃だ。

当時の僕らにとつて、学校の行事以上に大きな位置を占めていたのは集落の伝統行事だった。中でも5月の休み業(「神輿つさん」と呼んでいた)は一大イベントだ。

神輿といつても、私が物心ついた頃には既にリヤカーで押すものになっていたので、私は自分でお神輿を担いだ経験はない。僕らの学年は昭和42年生まれの子で、42年生まれのミニベロバイクで男が4人いたので、高学年になった頃、「担いだらどうだ」という声が大人達から出たようだが、幸いにもその案は立ち消えになった。私はその年、念願の太鼓の役が決まっていたのだ。いづれにせよ、一度止めたものを復活

させるのは伝統行事に限らず簡単ではない。

当時、集落の各家を廻ってお参りしてもらえ、金額は1軒欲望に従えば2日間の労働量に不相应な額を懐に入れることも出来たはずだが、やはりその辺は社会的常識のブレーキが小学生の意識にもそれなりに働いて、ほどほどの配分になるのだった。とは言うても、何年生は頑張つて声出してたからちよつと多めに分けてやろう、とかいう具合に、子供なりにいっちょよまめに判断して裁量を下したりもしたのだった。親は一切口出ししなかつた。

小学生の僕らは塾にも行ってなかつたしATMの使い方も知らなかつたが、こうやって少しずつお金の扱い方を覚えていったのだった。



新成人からの便り

魅惑の3km

第93回卒(平成14年)

堤 森岡紗貴子

わたしは現在大学2年生です。勉強、部活と充実した毎日を送っており、なかなかこちらに帰ってくることはできませんが、いまでも野木小学校の前を車で通り過ぎたりすると、「ああ、この道を通つたなあ」と懐かしくあたたかな気持ちになります。

わたしの家は堤にあります。堤と野木小学校の間には約3kmという、小学生にとつては遥かなる道のりがあります。寒い日も暑い日も、雨の日も風の日も雪の日も晴れの日も、数人の小学生とともに毎日登下校していました。今なら大雪の日や雨降りの日に3kmも歩くなんて嫌ですが、当時はむしろ嬉しかった記憶があります。冬は全身スノーウェアに長靴、ぼうしという完全装備で、雪が積もればもう自分が雪だるまになりそうな勢いで雪とたわむれながら、大

笑いで歩きました。嵐の日には、傘に風を上手に受け止められ、たら絶対飛べるはず!と全員で無謀な挑戦をして、全員が傘の骨を折り、ずぶぬれで学校にたどりついたこともあり、ました。春暖かくなつてくると、田んぼの畦道に寄り道して四葉のクローバーを探したり、じろつめ草で冠をつくつたり、細い畦道をどれだけ速く走れるか競争したり、野いちご狩りをしたりしました。そんなことをしていると3kmなんてあつという間で、家に着くと制服を脱いでくしゃくしゃつとまるめてほうり投げ(いつも祖母に叱られていました)また外に遊びにでかけました。毎日が冒険の連続でした。この道を見ると、今でもあのときのフレッシュな気持ちを出します。

都会育ちの大学の友人にこの話をする、みんな揃つて

驚きあきれまします。現代の日本に今でもそんな地域が存在するのかと半信半疑の顔で聞いてきます。しかしわたしのこのテの思い出は受けがよく、もはやわたしのネタのひとつになりつつあります。感受性豊か、好奇心旺盛、元氣いっぱい、の小学校6年間に、毎日片道3キロの道を往復したことがわたしの人生にかなりプラスになっていることは、言うまでもありません。

わたしは現在大学で国際文学化学という分野を専攻しています。将来は世界に目をむけた、国際関係の仕事に就きたいと考えています。しかしわたしの原点は、野山を駆けまわったという表現がピッタリの、思い出がつまったこの野木地区にあります。いつかわたしに子どもができたなら、子どもにも同じような小学校時代を送ってもらいたいです。そのときまで、今の輝きを失わずにいきいきとした野木の子の育つ場所として在り続けてください。今後の更なる発展をお祈りいたします。



小学校時代の思い出

第93回卒(平成14年)

兼田 河原健太

私は現在、高卒で就職して福井市内に住んでいます。同じ福井県内でも随分違うように感じ、ふる里である野木が恋しくなる時がしばしばあります。こちらでは皆、福井弁で喋っており、こちらに住んでから約1年半が経ちますが、いまだ馴染めておりません。そんな中たまに野木に帰りみんなの話を聞くと妙に落ち着く気がします。

さて、私の小学校時代ですが、自分で言うのもなんですが、勉強も運動も良くできた方だと思えます。勉強面では、よく忘れ物をしたり、宿題をしてこなかったりと先生にしかられた記憶があります。勉強は好きな方ではありませんでしたが、担任の先生の授業はとても楽しかったことを覚えています。漢字の成り立ちや算数の例題など先生の工夫に富んだ授業のおかげでテストの時

も授業の内容を思い出すことができ、スラスラと解くことができました。運動面では、私は常に上級生と休み時間にバスケットをしたり、サッカーをしたりしており、さらに負けず嫌いな自分の性格が上級生にも負けないという気持ちを出させ、身体能力を向上させていったと思います。ですから私が6年生になり、上級生がいなくなつたときとても寂しく感じたことを覚えています。そんな私が一番好きだった授業は体育です。体操服へ着替えグラウンドや体育館へ向かうときのドキドキは今、思い出すだけでも鮮明に蘇ってきます。特に、夏の水泳の授業は、大好きでした。水泳の授業があるときは、体温を計って印鑑を押したカードを持って行かなければならないのですが、それを忘れてしまい先生にプールに入らせてと泣きながら

頼んだような思い出もあります。6年生のとき水泳大会で基準をクリアして水泳の達人というのをもらったことも覚えていきます。今、思い返すだけでも様々な楽しかった小学校時代の思い出があります。朝の放送やお昼の放送、集落と合同での運動会、みんなで歌った音楽集会、給食が終わった音楽集会、給食が終わり一目散に体育館へと走る日々。

今の私の基盤を築いてくれたのは紛れもなく野木小学校のおかげでしょう。そんなことから地元へ恩返ししたいという気持ちが強く、辛いなことに移動がある職に就いたので地元へ帰れる日が来たときは地元の皆さんが安全で安心して暮らせるような町の実現に向けて一生懸命働きたいと思えます。



児童作文(家庭の日の作文)

ぼくのじいじ

1ねん たけむらゆうと

ぼくは、がっこうがやすみのひは、かいだんのふきそうじをしています。かいだんがきれいになるときもちがいいからです。

ぞうさんをかたくしぼるのはちからがいるけど、がんばってしぼります。

いちばんうえからじゅんばんにふきます。すみっこをふくのがいいです。だからぼくはすみっこにきをつけてふきます。ぼくは、「びかびかになーれ。」とおもいながらふくときれいになります。

かいだんそうじがおわるとしたのろうかをおねえちゃんとうふいています。

「よーいどん。」

できようそうとかもします。

ぼくは、いつもまけてくやしいです。



がっこうのたいいくかんは、ひろいしたいへんだけどいえのろうかは、みじかいからちよつとらくです。

そうじがおわるとかいだんもろうかもびかびかになつています。

おかあさんも「きれいにしてくれたな。」

ととてもよろこんでくれます。だからぼくはうれいし、「またがんばろう。」とおもいます。

ぼくのおじいちゃん

2年 杉谷 昂亮

ぼくのおじいちゃんは、ぼくが生まれてすぐに、しんきんこうそくというびよう気になり、毎日たくさんのクスリをのんでいます。しんぞうがわるいのに、毎日がんばつてしごとをしているので、ぼくはしんぱいします。

おじいちゃんは、朝早くから田んぼや畑へ行つてしごとをしています。お休みの日には、ぼくもいつしよに行くことがあります。くわで土をおこしたり、やさいをとるのを手つたいます。おじいちゃんは、かた手でだいこんをぬくことがでできるくらい力もちです。

はたけは、かわらの近くにあり、魚がたくさんおよいでいるところや、かぶと虫のよう虫、とりのすがあるばしよも教えてくれます。

雨の日には、いえの中であそんでくれます。紙ひこうきをつくったり、すもうをします。

すもうをとる時、おじいちゃんが見合つて、見合つて「見合つて、見合つて」と言い、そのあと「あかんあ」と言つて、自分のおしりを手でパンパンとたたきます。それを見て、みんなで大わらいます。とてもおもしろいおじいちゃんです。

そして、おじいちゃんがいつもぼくにじまんすることは、歯です。今年七十五さいにな

わたしのおばあちゃんは、五月二十九日になくなりました。おばあちゃんは、わたしが保育園の年長組だった時に、病気でたおれました。救急車で福井の病院に運ばれて、すぐ手術してもらいました。心配でたまらなかつたことを

るけど、全部自分の歯です。ぎん色につめたものはあるけど、入れ歯はありません。すごいなあと思います。

ぼくは、こんなおじいちゃんが大すきです。すぐに、「なんでもこうたる」と言うので、みんなにおこられるけど、とてもやさしいおじいちゃんです。ぼくが大きくなつたら、おじいちゃんにいつばいすきなものを買つてあげます。うんでんして、車にものせてあげます。だから、ずつとずつと元気で長生きをしてほしいです。

わたしのおばあちゃん

3年 藤田 かなみ

今でもおぼえています。おばあちゃんのいのちはたすかりました。でも、こしからは、まったく動かなくなりました。おばあちゃんは、自分で起きあがることができなくなりました。その後、福井から帰つてきて、おばあ病院に入

りてきて、おばあ病院に入

しました。まだ、ずっとねたきりでした。

わたしが一年生に入学した時、せいふくすがたを見せに病院へ行くと、おばあちゃんはびっくりしていましたが、「もう、そんなに大きくなっ

たよるこんでくれました。

夏休みが終わるころに一度たいいんしました。おばあちゃん

「つめた」
と言っていました。

おばあちゃんは、よくテレビでおわらいを見ていました。おばあちゃんはおわらいが大すきでした。わたしもおばあちゃんの部屋のソファーでいつしよに見ていました。お

よにねました。ねる前におばあちゃんにこわい話をしてもらうと、こわくなって、トイ

レはおじいちゃんについてきてもらったこともあります。

それに、おばあちゃんは、手じゅつをして声が出なくな

ってしまいました。はじめは、会話をしても何を言っている

のか分かりませんでした。でも、なれてくると何となく分かる

ようになりました。おばあちゃんといつしよにかにを食べ

たことも大事な思い出です。そんなおばあちゃんが、ま

た入いんしました。ずっとねたきりだったのでかわいそう

でした。でも、わたしは、きつとまた帰つてくるとしんじ

ていました。お見まいに行つておしゃべりもしました。

でも、おばあちゃんは元気にならず、そのまま天国へ行つてしまいました。わたしは、病室でくやくてなきました。やさしくて、大すきだったおばあちゃん、今ごろは天国で

大ばあちゃんの入院

4年 北村拓也

多くの家族は、九人家族

です。人数は、多いけどにぎやかな家族です。そんな

ぼくの家族の中には、九十才になつたおばあちゃん

がいます。おばあちゃんは、七月四日に家の近くをさん

ぽしていて、こけて足の骨を折ってしまいました。そ

のあと病院に入院しました。最初のベット生活では、

足におもりをつけていたり、うでは点てきをしたり、

とてもつらそうでした。そんなおばあちゃんに会うた

め時どきぼくは、病院にお見まいに行きます。お見ま

いに行くといつも手をにぎつてあげます。おばあちゃん

おばあちゃんにな

ぼくがささえてあ

顔になれるよう

できる仕事をした

ます。

大ばあちゃん

院したままで歩

早く元気になつ

てきてほしいです

人で歩けなかつ

が助けてあげて、

やんが少しでも

また、え顔を見

です。

たい院できる

お見まいに行

ます。

ぼくも、お父

みんないつか

お父さんお母

お父さんお母

お父さんお母

お父さんお母

お父さんお母



くまばあちゃん

5年 竹村佳久

くまばあちゃんは、ぼくの

お母さんのお母さんです。くま川に住んでいたので、小さいときから、ぼくは、くまばあちゃんとよんでいました。

くまばあちゃんは、ぼくの五才のたんじょうの日に、病気でなくなりました。

ぼくが小さいころ、くまばあちゃんの家へよく遊びに行きました。くまばあちゃんは、本をよく読んでくれました。なかでも「ももたろう」をよく読んでくれたのを覚えています。家の前で、ボール遊びをしたり、シャボン玉をやったりしました。

今年の七月に、くまばあちゃんの、七回きの法事がありました。法事の前に、お母さんとお墓そうじに行きました。お墓のまわりに草がいつぱい生えていたので、草取りをしました。きれいな花をそなえて、お参りをしました。ぼくは、

心の中で、

「くまばあちゃん、ぼくは、もうちょっとで十一才になります。勉強やサッカーをがんばっています。」

と言いました。

お母さんが、

「佳久は、やさしい子や。」とくまばあちゃんが言っていたと教えてくれました。ぼくは、ちよつと照れくさかったけど、すごくうれしかったです。

ぼくの妹は、ぼくより二才年下です。弟は、ぼくより四年下です。弟は、くまばあちゃんのことを覚えていません。妹は、少しだけ覚えているみたいです。

だからぼくは、くまばあちゃんの事を、しっかりと覚えておこうと思います。

そして、妹や弟にくまばあちゃんの話しをいつぱいしてあげようと思いました。

くまばあちゃんの七回きの

法事の日、家族で小浜のおじさんの家へ行きました。親せきやいとこが集まりました。お寺のおぼうさんに、おきようをあけてもらいました。

長いお経を聞きながら、

「くまばあちゃん、ぼくらの事、見ていてくれるのかな。」と思いました。

おきようが終わり、みんな

戦争について考えた夏

6年 棗原康輔

ぼくは、毎年おぼんにはお手伝いをします。

お花をそなえたり、そうじをしたりするのはおばあちゃんです。だんご作りは、毎年お母さんとするのですが、今年はお母さんが仕事だったので、ぼくが全部引き受けて作りました。

灯ろうを持って行くのも、灯ろうに火をともしに行くのも、ぼくとお父さんでした。ときどき兄弟たちも、ともしに行っていました。

お盆には、いつも親せきの

でお昼ご飯を食べました。みんな笑っていたので、きつとくまばあちゃんも喜んでいると思います。

ぼくは大人になっても、たん生日が来るたびにくまばあちゃんの事を思い出します。

おばさんやおじさんが帰って来て、とてもにぎやかで楽しいです。ごちそうを食べたり、火花をしたりと、お盆は、ぼくの夏休みの楽しみの一つでもあります。

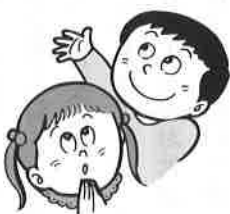
でも、今年のお盆のむかえ方は、いつもとちがいました。ぼくのうちのご先祖様には、

戦争でなくなつた「宗五郎」という名前の方がいます。仏だんに写真がかざつてあつて、家族のみんなは、ぼくにそっくりだと、いつも言っています。ぼくは、似ているかな、とい

つも思っていました。

ぼくたち野木小学校の六年生は、一学期に、修学旅行で広島に行ってきました。広島市の平和記念公園には、原爆で一しゅんにして、鉄の骨組みだけになった原爆ドームがあります。ぼくは、そこで、戦争の恐ろしさや悲しさを目にしました。

このように、平和学習をした今年のお盆は、いつもはあまり深く思っていなかった、戦争について考えました。そして、戦争に行つて若くして亡くなつてしまった、このご先祖様のことを考えました。ぼくは、お墓や仏だんで、今まで以上に心をこめてお参りをしました。そして、これからも毎年そうしようと思います。



野木小学校 俳句王国

◎ 1 年

おいもほりいっばいっばいみつけたよ
 おいもほりでつかいおいもほったんだ
 あきみつげどんぐりいっばいひろったよ
 おべんとうすきなものいっばいつまったら
 たのしいよみんなでほったおいもほり
 あきみつげどんぐりいっばいみつけたよ
 あきみつげどんぐりつばきまつぼっくり
 うりわりはこいもいたからたのしいよ
 おいもほりぬけるとでつかいぐにやぐにやだ
 あきみつげみんなでたべたおべんとう
 あきみつげどんぐりたくさんみつけたよ
 べらんだで大かまきりをつかまえた

あづましようせい
 いせき おとみ
 おおはし あいと
 きたむら ちか
 こやま ゆうか
 たけむら ゆうと
 たなかり ようが
 つかもと さくや
 ないとう かいと
 にかわどり ももか
 ひがしやま ゆうか
 やまもと るいと

◎ 2 年

きんいろの空から来たよ赤とんぼ
 あきみつげこのはがいつばいいろいろだ
 アキアカネちやいろいろ空をとんでいる
 いもほって手がごろうごろうだちやいろいろな
 赤色のおちばをたくさんみつけたよ
 きれいだねやまがもえるよもみじかな
 たこあげてたかくあがつてたのしいな
 みどりのはきいろにそまれあきになれ
 あかとんぼいつもみんなのそばにいる
 あかとんぼきれいなしつぽほそながい

いばた はると
 くぼた だいら
 すぎたに こうすけ
 たけむら こうき
 たなか れいな
 つかもと せな
 つかもと ゆうき
 ふくだ こうたろう
 みの まなみ
 やまだ かのん

◎ 3 年

秋になり葉っぱや落ち葉色づいた
 くりのいがちくちくするけどおいしいな
 あかとんぼすいすいとんでたのしそつ
 ほたがきをじいちゃん食べてごきげんだ
 まつたけはいまがしゅんでおいしいよ
 秋になりおちばがゆらりとゆれている
 すすぎがねゆらゆらゆらりとゆれている
 秋になりおちばが風にあおられる
 秋の道どんぐりおちばやっぱ秋
 あきのもりこのはがかせにあおられる
 秋の道かえるがはねるかわいいな
 おちばがねひらひらおちるきれいだな
 赤とんぼ夕日といっしょにとんでいる

東 ま
 奥本 じゅん子
 小野 真よし
 北浦 ねね
 倉谷 和か
 高本 ゆうと
 竹村 かりん
 田中 大が
 田中 ゆうみ
 福井 りょう人
 藤田 かなみ
 前田 ひめか
 緩詰 なな

◎ 4 年

きれいだなもみじがさいたあきげしき
 登校時もみじがいつばい落ちている
 もみじだなまっかにそまるもみじだな
 秋の山赤や黄色にそまってる
 おちばがね木からゆらりとおちてくる
 もみじはねキラキラ落ちるきれいだな
 こうようがきれいな山がいつばいだ
 秋の山もみじたくさんきれいだね
 かいきん日かに食べるのおいしいな
 きれいだな思わず手にとるもみじだよ
 紅葉が手をふりながら舞い落ちる
 赤とんぼあちこちいっばい楽しそう
 まつたけはおいしいばかりちゅうもくだ
 どんぐりがごろごろおちてスケートだ

居関 おとは
 小谷 美沙紀
 北村 たくや
 窪田 廉大
 桑原 健太
 斉藤 大地
 清水 しょう太
 田中 えいじ
 田中 せいや
 中村 純菜
 藤田 友郎
 丸井 みなみ
 美濃 勇人
 宮川 真子

◎5年

インフルは強烈なのでマスクする
 秋風に小さな花がゆれている
 ゆきふらずみんな待ってるはやくふれ
 紅葉がだんだん増えてきれいだね
 いもやくりやっぱり秋は食べ物だ
 冬になりみんなでとりあうストーブを
 おが虫がまどにひつつき気持ち悪い
 音楽会ドキドキしたけど大拍手
 つらくてもインフルエンザ吹っ飛ばす
 秋になり家族で行くよもみじがり
 雪ふって寒くなっても遊ぼうよ
 カニが来たエチゼンクラゲもプレゼント

◎6年

記録会百メートル走悔いはなし
 赤とんぼゆらゆら飛んで楽しそう
 秋のうた演奏合唱また笑顔
 全力で走って跳んだ記録会
 記録会入賞のがし残念だ
 きれいだね花火輝く夜の街
 メンバーで力合わせた記録会
 海水浴風といっしょにうたう歌
 光浴びひまわりにつこり笑ってる
 後期から児童会長行事づめ
 記録会高とび入賞しかも二位

植野 あいか	小野 絢可	北浦 安珠	倉谷 愛加	倉谷 智哉	高本 侑希	竹村 佳久	塚本 峻也	中村 奈々子	橋本 明歩	福田 瑞希	前田 沙綾	伊藤 剛樹	植野 拓真	植野 夕海	窪田 莉子	来原 康輔	小山 侑亮	武田 三波	田中 美鈴	畑中 日菜子	丸井 勇人	緩詰 真弓
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------

編集後記

今年は、新型インフルエンザが猛威をふるい、その状況が盛んに報じられていますが、同窓会員の皆様には、いかがお過ごしのことでしょうか。母校や、同窓会員の近況などをお知らせする「野木小学校同窓会報二十号」ができあがりましてので、お送りさせていただきます。

同窓会報の発行にあたり、原稿の執筆をお願いいたしました皆様方には、お忙しい中にも関わらず、快くお引き受けいただきましてありがとうございます。お陰様で、大変、内容のある会報に仕上がりました。編集委員一同心から感謝いたしております。

さて、今年度、野木小学校では、「表現力の向上」に力を

入れており、その一環として全校児童で俳句に取り組んでおります。今回は、学校内に設置された「俳句ポスト」から、児童の作品を一句ずつ掲載させていただきました。学校生活・学習の様子を詠んだ句も多く、ほのぼのとさせられます。会員の皆様におかれましても、ぜひ、近況などを、俳句、短歌などにて投稿いただければ、ありがたく存じます。

末筆ながら、会員の皆様のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。

